

外来種 ツヤハダゴマダラカミキリ に ご注意ください！

2002年国内初記録で2004年には発生が終息したと考えられていた**ツヤハダゴマダラカミキリ** *Anoplophora glabripennis* 英名: Asian long-horned beetleが、2020～2021年にかけて宮城県から山口県にいたる8つの県で再発見され、被害が拡大しています。園内に侵入していないか、一度樹木をご確認下さい。

- ・ 中国東部から朝鮮半島中部に分布。
- ・ 街路樹や果樹を含む非常に多くの樹種を食害します。
- ・ 国際自然保護連合「**世界の侵略的外来種ワースト100**」の**1種**です。
- ・ 日本在来の **ゴマダラカミキリ** *A. malasiaca* に酷似しています。

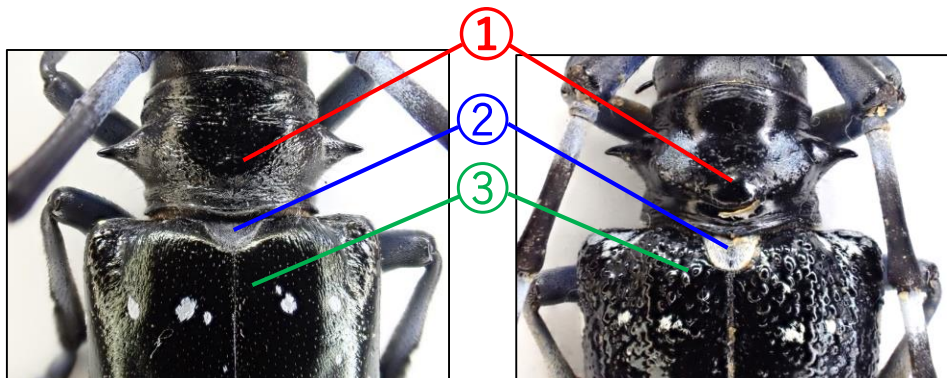


どちらも
体長は
25～40 mm



ツヤハダゴマダラカミキリ

ゴマダラカミキリ(在来種)



見分け方

ツヤハダゴマダラ
カミキリは

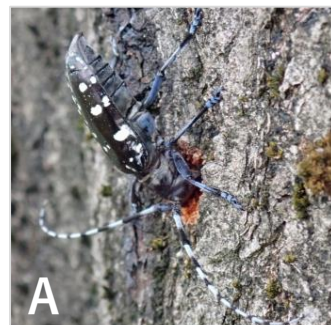
- ① 首の部分の背側の突起と毛がない
- ② 羽の付け根中央部の毛が細く、淡色に見える
- ③ 羽の上面基部にイボ状の模様が無くなめらか

これまでに報告のある被害樹種

ムクゲ、カエデ属、カツラ、トチノキ属、カバノキ属、ハコヤナギ属(ポプラ)、ヤナギ属、ハンノキ属、ネムノキ属、ニレ属、グミ属、センダン属、クワ属、スズカケノキ属(プラタナス)、リンゴ属、サクラ属、ナシ属、ナナカマド属

●成虫は5～10月頃に出現し、寄主植物の樹幹などを食害して穴を開け(写真A)、その窪みに産卵します(写真B)。孵化した幼虫は秋から冬に樹の内部を食害して、心材部で越冬します。成虫が羽化すると、直径1cm程度の脱出孔を開けて、樹木から脱出します(写真C)。継続的に被害を受けることで、寄主の樹は衰弱していきます(写真D)。

●対策などの詳細は、早瀬・桐山(2022)の速報レポート(富山県中央植物園研究報告27: 71-84)をご参照下さい。



園内外でツヤハダゴマダラカミキリを確認されましたら、下記宛ご一報いただくと幸いです。

(公社)日本植物園協会 植物多様性保全委員会 外来種対策分科会座長
中田政司(富山県中央植物園長) E-mail nakata@bgtyrn.org

©日本植物園協会・早瀬裕也・桐山 哲 2022